

2020年第81回応用物理学会秋季学術講演会

テクニカルシンポジウムT-6

機能性酸化物のイオンと電子が織りなす 蓄・創エネルギーデバイスの新展開

2020年9月10日 (木) 13:30~17:00 (オンライン開催)

2019年ノーベル化学賞受賞となったリチウムイオン電池の発明は記憶に新しく、その中でGoodenough先生の見出された遷移金属酸化物はイオンが寄与する正極材料として重要な役割を占めており、今後の蓄エネルギーデバイス展開に向け益々重要となります。さらに遷移金属酸化物は金森-Goodenoughの法則で知られる様に磁性/スピン物質として重要であり、イオンの制御によりその物性の制御が可能であることの認識も広がっています。

本シンポジウムでは、遷移金属酸化物をはじめとする機能材料薄膜の蓄・創エネルギーデバイスの物理と化学、電池・イオンデバイスの最新評価法、化学（イオン）と物理（電子）の出会いによる新奇電子・スピン物性の創出、蓄エネルギーから環境エネルギーデバイスへの展開、蓄エネルギーデバイスの産業展開において一線でご研究を展開されている方々にご講演をお願いし、今後の発展を議論する場を提供いたします。

招待講演者(敬称略)

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 菅野 了次 (東工大) | 「全固体電池の開発とその周辺のサイエンス」 |
| 朝倉 大輔 (産総研) | 「オペランド軟X線分光によるリチウムイオン電池電極の酸化還元機構の解明」 |
| 島川 祐一 (京大化研) | 「遷移金属酸化物におけるイオンの配列および価数制御による新奇物性の探索」 |
| 近松 彰 (東大院理) | 「アニオンドーピングによる強相関酸化物の物性変調」 |
| 泉 康雄 (千葉大院理) | 「両極に遷移金属酸化物ベースの光触媒を用いる高電圧型太陽電池」 |
| 中村 孝則 (株式会社村田製作所) | 「酸化物系固体電解質を用いた全固体電池」 |

世話人：田中 秀和 (阪大) 組頭 広志(東北大)、松野 丈夫 (阪大)、
上野 和紀 (東京大学)、中川原 修 (村田製作所)、
秋永 広幸 (産総研)、島 久 (産総研)、菅 大介 (京大)
問い合わせ先：田中秀和 h-tanaka@sanken.osaka-u.ac.jp